

笠原総長代行がウポポイを訪問

北海道大学アンバサダー・パートナーウェビナー2020を開催

竹谷監事と北海道大学教職員との意見交換「監事と語る会」を開催

お知らせ

- ・「北海道大学の役職員の給与等の水準（令和元年度）」の概要について
- ・被扶養者の要件の確認





笠原総長代行と長谷川理事がウボボイを視察



令和2年度出入国管理制度説明会をWebexオンライン会議システムで実施

全学ニュース

- 1 笠原総長代行と長谷川理事がウボボイを訪問
- 2 北海道大学アンバサダー・パートナーウェビナー2020を開催
- 4 北大フロンティア基金
- 7 竹谷監事と北海道大学教職員との意見交換会「監事と語る会」を開催
- 8 令和2年度出入国管理制度説明会をWebexオンライン会議システムで実施
- 9 おしよろ丸が教育関係共同利用拠点に再認定

部局ニュース

- 10 水産科学研究院と北海道奥尻高等学校が高大連携協定を締結
- 10 バランスドオーシャン事業による『LASBOS Moodle』の構築と学内公開
- 12 2年次学部学科移行生のコミュニケーション環境整備（オンライン交流・歓迎会）について
- 13 附属図書館（本館・北図書館）における感染拡大防止への取り組み
- 14 北方生物圏フィールド科学センター研究林産の木材を銘木市に出品
- 15 スラブ・ユーラシア研究センター国際シンポジウム「北東アジア～歴史と未来、発展と摩擦」開催

お知らせ

- 16 「北海道大学の役職員の給与等の水準（令和元年度）」の概要について
- 17 被扶養者の要件の確認

監事退任にあたって 18

学内規定 19

諸会議の開催状況 20

人事 21

- 22 新任役員紹介
- 23 新任教授紹介

訃報

- 24 名誉教授 黒澤 悦郎 氏
- 24 名誉教授 田川 遼三郎 氏



水産科学研究院と北海道奥尻高等学校が高大連携協定を締結



理学部2年次学部学科移行生のオンライン交流・歓迎会



附属図書館（本館・北図書館）における感染拡大防止への取り組み



北方生物圏フィールド科学センター研究林産の木材を銘木市に出品

表紙：竹谷監事と北海道大学教職員との意見交換「監事と語る会」を開催（関連記事7頁に掲載）

裏表紙：キャンパス風景⑤ 平成ボプラ並木（北16条西13丁目付近）

■全学ニュース

笠原総長代行と長谷川理事がウポポイを訪問

7月26日（日）、笠原正典総長代行と長谷川晃理事が、7月12日（日）に白老に開業した民族共生象徴空間「ウポポイ」を訪問しました。

民族共生象徴空間「ウポポイ」は、アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターとして、アイヌの歴史、文化の理解促進や、将来へ向けてアイヌ文化を継承し、新たなアイヌ文化の創造発展につなげるための拠点として整備されたものです。

当日は、本学を含む全国の大学等で保管されていたアイヌの方々の御遺骨を集約した「慰霊施設」を訪れ（近隣で熊出没情報があったため車窓からの

見学）、ウポポイの中核区域に移動した後は、体験交流ホールにおいて、アイヌの世界観やカムイ（アイヌ語で「神」の意）との関係性を表現した舞踊「イノミ〜アイヌの歌・踊り・語り〜」を鑑賞しました。

その後、北日本では初となる国立博物館である「国立アイヌ民族博物館」を訪れ、常本照樹アイヌ民族文化財団理事長（前北海道大学アイヌ先住民・研究センター長）や佐々木史郎博物館長から展示内容について説明を受けました。

本学は、民族共生象徴空間「ウポポイ」への誘客促進に取り組むとともに

に、道内各地のアイヌ文化振興の取組や食・観光等の地域の多様な魅力とつなぎ、国内外への総合的な情報発信を強化するなど、オール北海道で、アイヌ文化の創造発展と道内経済の活性化・地域創生の好循環を図ることを目的に、関係行政機関や関係団体、道内経済関係団体で構成される「民族共生象徴空間交流促進官民応援ネットワーク」の構成員となっております。

皆様も是非一度足を運んでみてください。

（総務企画部総務課）



佐々木アイヌ民族博物館長（右）から説明を受ける
笠原総長代行と長谷川理事



常本アイヌ民族文化財団理事長（右）から説明を受ける
笠原総長代行と長谷川理事

北海道大学アンバサダー・パートナー・ウェビナー2020を開催

7月30日(木)、総務企画部広報課では、各国の北海道大学アンバサダー・パートナーに協力いただき、「北海道大学アンバサダー・パートナー(HUAP)ウェビナー2020」を開催しました。

本ウェビナーは、昨年から開催した「北海道大学アンバサダーミーティング」がコロナ禍により実施が難しくなったことから、オンラインで開催したものです。第一部のパネルディスカッション、第二部のブレイクアウトセッション(分科会)で構成し、本学教職員・同窓生・在校生・HUAPら約100名の参加がありました。

笠原正典総長代行の開会挨拶で開始されたパネルディスカッションは、まずはテーマ1「コロナ時代の留学について—北海道大学はいかにして海外からの留学生を確保・サポートするか」について発表が行われ、司会者を兼任する川野辺創国際連携機構副機構長による本学における留学生確保及びサポートの取組状況についての報告の後、3名のHUAPが登壇しました。

北海道大学アンバサダーのオウティ・スネルマン氏(北極圏大学副学長兼事務局長、ラップランド大学国際連携部長)からは、新型コロナウイルス感染症による死亡者数が比較的少ないフィンランドでは、他国と違い大学に対応策が任されており、ラップランド大学では現在50名以下の条件でオンライン・オフラインの混合による授業が進められているが、北極域大学に参加するスウェーデンやロシアの大学では依然として留学生を全て募集停止しており、学習資料のためのオンラインライブラリを充実させている、との報告がありました。

北海道大学パートナーのトルステ

ン・ウォーランド教授(シンガポール国立大学)からは、現在シンガポールはコロナ禍の第二波の渦中にあること、オンライン学習の長短についての考察、そしてシンガポール国立大学では全ての座学授業はオンラインになったが、ソーシャルディスタンスを保ちつつ実験は行われていること、今後オンライン・オフラインの混合授業が増えることが予想されるため、モジュールをオンラインにアップロードすることが求められている、との報告がありました。

北海道大学パートナーのアイミー・スー・マルティネス准教授(フィリピン大学システム国際連携局副局長)からは、フィリピン大学全7分校について、対面授業の停止や交流活動の休止に加え、国際会議もオンライン化しているという現状と、今後オン/オフラインの混合による柔軟な学習体制の構築等バーチャルキャンパスの実装を目指すこと、加えて、学生のメンタルヘル스에配慮しコミュニケーションを補うためのオープンチャットグループの導入などが報告され、本学に対しては遠隔で実施可能なインターンシッププログラムを実施して欲しい、との提案がなされました。

第一部パネルディスカッションの後半はテーマ2「HUAPおよび海外同窓会による活動・取組の好事例紹介」について2名のHUAPから発表がありました。

北海道大学アンバサダーの新谷一郎氏(JGCインドネシアオペレーションディレクター、ジャカルタエルム会会長)からは、本学国際インターンシッププログラム参加学生の受入れと歓迎会ジンパの開催や、ジャカルタで定期

的に開催される七帝戦ゴルフコンペを通じた交流などについて写真を交えた報告のあと、自分の目標は、ジャカルタ在住北大同窓生同士のみならず、同窓生と北大生との交流促進であり、今後もこれを目指していく、との力強い言葉がありました。

北海道大学パートナーのモハメット・アブ・ピン・ハサン・スーサン教授(ダッカ大学)は、共同研究をきっかけに本学との交流を深め、本学研究者・学生のダッカ大学訪問のコーディネートに協力するほか、ダッカ大学学生への積極的な働きかけや助力を行い、これまでに実に30名以上のバン格拉デシュ人留学生を本学へと導いたこと、また、北海道大学パートナー委嘱後新たにフェイスブックグループを作成してバン格拉デシュ同窓会の設立に向け活動を行っていることを発表しました。

第二部分科会「先輩を囲んで座談会」では、使用言語(日、中、韓、英、バン格拉デシュ、マレーシア、インドネシア)で分けられた7つのブレイクアウトルームが設定され、15名のHUAPが先輩(アドバイザー)として参加し、自らのキャリアパスについて紹介するとともに、学生からの質問に答えました。質問は主に卒業後のキャリアについてや、それぞれの先輩が所属する海外同窓会の活動についてなど多岐に及び、なかなか直接話す機会がないシニア世代HUAPから直接丁寧にアドバイスを受けられたことは、学生達にとって楽しく得難い機会となりました。またかつて先輩HUAPから指導を受けた学生らにとっては旧交を温める同窓会のような集まりとなり、本学の海外同窓生ネットワークの強化にも



開会挨拶する笠原総長代行



ウェビナー運営管理会場

つながりました。

北海道大学アンバサダー・パートナー制度は5年目を迎えました。本学の国際化の推進はもちろん、北海道大

学アンバサダー・パートナー自身にも有益な制度となるよう発展していくことを目指し、順次新たな方をお招きしながら、今後もこのような集まりを定

期的に開催する予定です。

(総務企画部広報課)



北海道大学アンバサダー スネルマン
北極圏大学副学長兼事務局長、
ラップランド大学国際連携部長



北海道大学パートナー ウォーランド
シンガポール国立大学教授



北海道大学パートナー マルティネス准教授、
フィリピン大学システム国際連携室副室長



北海道大学アンバサダー 新谷
JGCインドネシアオペレーションディレクター、
ジャカルタエルム会会長



北海道大学パートナー スーサン
ダッカ大学教授



バン格拉デシュ分科会の様子

■全学ニュース

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をするとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（7月31日現在）

27,345件 5,215,128,070円

7月のご寄附状況

法人等13社、個人514名の方々から33,507,692円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

岩見沢市立総合病院、住友化学株式会社、医療法人社団 康久会 中島産婦人科医院、有限会社社長良観光バス、
ニューオータニイン札幌、響きの杜クリニック、一般財団法人 北海道河川財団、マーケットイノベーション株式会社

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	四十谷利浩	相原 雪乃	青木 憲一	青木 稔尚	秋元 義禮	安達真由美	阿野 俊英
阿部 和保	新井 三郎	五十嵐紀男	池田 陽一	池田 梨子	猪坂 公德	伊佐田智規	石井 純子
石井 翼	石井 哲夫	石井 正之	石川 俊文	石崎 福邦	石塚 雅晴	石橋 美郷	石原 嘉孝
石間戸宗明	石渡 英夫	泉 達司	市川 剛章	伊藤 昭英	伊藤 和生	伊藤 哲	伊藤 利章
伊藤 文洋	犬童いづみ	井沼淳一郎	井上 明	井上 蓉子	猪股 哲美	井原 博	今井 規子
今田 明美	今村 健登	入江 和彦	入澤 秀次	岩崎 哲也	岩本 章	上田 一郎	上野 明夫
内田 文雄	内山 英司	宇野由利子	江川 宏	衛藤 正敏	榎戸 純	縁記 和也	及川 和宏
及川 恵	大家 邦久	大櫛 和行	大澤 裕次	大関扶優子	大滝まり子	大友 哲也	大野 雅弘
大原 正範	緒方 清一	岡田 哲弥	岡田 智雄	小川 哲次	荻原佐知子	奥田 尚	奥田 英信
奥山 正人	尾崎由紀子	小山内真白	納 弘	織田 健造	小田 尚	小田原一史	越智さと子
落合 廣	小原 隆由	賈 立男	加我 稔	笠原 智恵	鍛冶 文音	梶間 勇樹	春日 清一
勝然 美希	勝又 貞幸	加藤 依子	金川 眞行	金子 伸一	加納 侑一	川合 康文	川上 雄大
川田 学	川村 礼紀	河本 充司	岸田 幸也	木島 英夫	北川 徹	北村 均	北村 倫夫
鬼頭 康之	木股 昌俊	木村恵美子	木村 智子	木村 隆之	木村 雅一	日下 大器	楠美 清彦
工藤 寛	工藤 俊哉	国吉 昌晴	熊谷 健一	倉元 祥伍	黒田 博重	小坂 則生	小出 英子
小出 達夫	河野 和枝	小坂 淳	小島 忍	小平 紘之	児玉 信雄	後藤 和幸	小林 広武
小林 勇樹	駒川 和延	駒田 慶信	小松 俊哉	小松 典子	駒橋 憲一	西城 一翼	齋藤 彰
齊藤 栄子	齊藤 晋	齊藤 隆	斉藤 久	斉藤 義幸	佐賀 彩美	境 恭宏	坂本 大介
坂本ひろみ	坂本 仁彦	櫻井 克信	桜田 通雄	佐々木伸浩	佐藤 淳治	佐藤 恒久	佐藤 博文
佐藤 八雷	佐藤 陽祐	真井 徳幸	佐野 稔	澤井 一彦	澤出 綾子	三升畑元基	三分一博基

志済 聡子	志田なや子	柴田 峰子	渋谷 元	渋谷 正人	清水 宏美	清水池義治	下村 達也
城 攻	白井 真也	白川 潤	白水 浩信	新藤 慶	新藤こずえ	菅野 和明	菅埜 誠
菅野勇太郎	杉江 和男	杉本 光	菅野 直之	鈴木 研太	鈴木 秀一	鈴木 貴之	鈴木なみえ
鈴木 泰	須田 力	陶山 俊輔	諏訪 文洋	清野 康生	瀬川 孝広	関 高樹	関 靖直
瀬名波栄潤	十河 哲也	田海 秀穂	田岡 翼	高城 靖子	高橋千代丸	高橋 英明	田上 優介
竹内 眞	竹下 忠彦	竹田 正直	竹林 孝	田坂 幸平	田嶋 聡司	田島 朋子	伊達 正文
田所厚一郎	田中 佐織	田中 祥子	田中 俊逸	田中 恭子	田辺 速夫	谷 健一	谷口 直之
多米 豊	丹野千枝美	陳 理弘	津川 誠	辻 ゆり	對馬 順哉	津田 栄継	土本 光一
土家 琢磨	土屋 裕	角田 毅	鶴田 敏郎	寺澤 睦	照屋 均	土井 清隆	徳永 敦子
渡慶次 学	戸田 純子	飛澤由紀子	筈 哲夫	友岡由紀子	豊田 威信	鳥山まどか	内藤 拓
中尾 隆道	中川 哲男	中川 文子	中島 樹生	長島 史子	長瀬 博	永田 知子	中塚 英俊
中村 貢三	中村 哲子	永森 久善	中山 貞夫	名倉 章裕	南園 真純	西川 克之	西田 実弘
布上 恭子	野末 修平	橋村正悟郎	橋本 久尚	長谷川 淳	幡鎌 俊昭	服部 紀博	花田 秀一
濱田 慎二	浜田 毅	浜谷 一郎	早川 和雄	林 まゆみ	原 猛也	原澤 辰明	伴 遼太郎
伴戸 久徳	東 香苗	東野 裕	樋口 恵一	飛弾 隆之	姫野 雅子	平井 敦子	平尾 実美
平塚あゆみ	廣重 勝彦	廣瀬 知弘	弘谷多喜夫	福士 幸治	福田 勝洋	福田 俊彦	福永 悟郎
藤澤 裕子	藤田 哲	藤田 秀喜	藤田 洋一	藤原 睦紀	古畑 仁	フンティロフ ゲオルギー	保坂 善真
星野 智紀	細井 眞澄	堀川真紀子	堀口 健雄	本間 祐希	前久保博士	前田 隆裕	前田 博
前田 陽子	升光 法行	益村 欣照	町井 輝久	松川 貢	松下 啓郎	松下 哲	松田 健一
松田 康子	松永 武	松原 謙一	松本伊智朗	松本 啓吾	眞鍋 尚樹	マリア ステファニ	三浦 英典
三上 博光	三品 誠邦	水木 伸一	水島 好人	水谷 祐輔	水野 君平	溝口 恵子	三田寺久男
皆川 一志	皆川 宏	皆川 義隆	湊 和雄	南 昭彦	南村 尚昭	嶺野 幸子	三村 直己
三村 道丸	宮崎 隆志	宮澤 葉子	宮田 信幸	宮本亜矢子	武藤 健一	棟朝 雅晴	村上 泰一
村上 幸夫	村田 佳代	森田 益充	森本 裕二	諸富 隆	安井 敬一	安江 正博	柳町久美子
八幡 敬一	山北 一郎	山北 雅恵	山口 淳二	山口 泰彦	山崎 周二	山下 一美	山下 健一
山下 貴正	山田 敏彦	山本 茂生	山本登志美	山本 和邦	山本 雄一	遊佐 英嗣	柚木 孝敬
横井 成尚	横山 考	横山 尊一	吉田 勝俊	吉田 広志	若狭 隆	若狹るみ子	若松 郁郎
和田 肖子	渡辺 恵子	渡辺 精一	渡会 雅明				

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法 人）

岩見沢市立総合病院、住友化学株式会社、響きの杜クリニック、一般財団法人 北海道河川財団

（個 人）

伊藤 和生、桜田 通雄、関 靖直、角田 毅、長谷川 淳、堀口 健雄、溝口 恵子、湊 和雄、山口 泰彦、山田 敏彦、山本 和邦

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

竹谷監事と北海道大学教職員との意見交換会「監事と語る会」を開催

人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室では、令和元年（2019）11月～令和2年（2020）5月にかけて、竹谷千里監事と協働し、教職員の方々と直接意見交換を行う「監事と語る会」を開催しました。

竹谷監事は、道庁の職員として活躍した後、H28（2016）年4月に北大監事に着任して以来、女性活躍やダイバーシティに関心を持ち、H29（2017）年から継続してそれらを監事監査の重要テーマとし、推進に向けた意見書を総長に提出してきました。

意見書を提出するには本学における教職員の方々の意識を知ることが必要だとし、人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室（旧女性研究者支援室）と協働して、H29年度には女性職

員・教員、H30（2018）年度には男性職員・教員に対し、職場環境やライフイベントに関わるアンケートを実施しました。

※教職員に対するアンケート結果はこちらからご覧になれます。（学内限定サイト）

<https://reed.synfoster.hokudai.ac.jp/inner/>

令和元年（2019）度監査に当たっては、上記アンケートをもとに、教職員の方々と直接意見交換を行うため、「監事と語る会」を6回開催しました（令和2年（2020）度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為Web会議方式にて開催）。意見交換会には、男性、女性、外国人教職員の方、約40名に参加いただきました。ご協力をいただい

た皆様には、この場を借りましてあらためてお礼申し上げます。

これまでの活動を受け、ダイバーシティ環境の推進に係る令和元年度の意見書は、令和2年7月9日（木）に監事から総長代行に提出しました。この意見書については、令和2年7月15日（水）の部局長等連絡会議で報告しておりますので、そちらをご覧ください。

ダイバーシティ研究環境推進室の活動については、こちらのWebページをご覧ください。

<https://reed.synfoster.hokudai.ac.jp/>

（人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室）



竹谷監事とダイバーシティ研究環境推進室長堀特任教授



Web会議方式にて開催した「監事と語る会」

令和2年度出入国管理制度説明会をWebexオンライン会議システムで実施

7月16日（木）、本学にて出入国管理制度説明会を開催しました。

本説明会は「北海道留学生交流推進協議会」の事業の一環として、本協議会関係者向けに最新の正しい出入国管理制度の情報を提供し、制度への理解を深めることを目的とし毎年開催されているものです。出入国在留管理局等から講師を招いて行っており、今回の参加者は道内各地の32団体から計118名と過去最多となりました。

また今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため集会での開催を中止し、初の試みであるオンライン会議システム「Webex」を利用した方法で実施しました。オンライン配信会場では消毒液とマスクの用意及び換気を行う等の感染防止策を徹底し、開会に先立ってWeb会議システムの操作方法を説明するオリエンテーションを導入する

など、参加者に配慮して進行了しました。

説明会では、法務省札幌出入国在留管理局審査部門の加瀬秀幸統括審査官から「出入国管理制度、申請取次制度について」の講義があり、最新の入国者の動向や制度について説明がありました。次に北海道農政部生産振興局畜産振興課の本間慎太郎主査から「家畜の海外悪性伝染病と農場の自衛の取り組みについて」、続いて農林水産省動物検疫所北海道・東北支所検疫課の浅倉瑛梨防疫官から「肉製品の違法持ち込み防止に向けて」の講義があり、家畜伝染病の傾向と対策及び肉製品の持ち込み厳格化に関する内容が紹介されました。質疑応答では、新型コロナウイルスの影響による留学生の再入国に関する措置や申請取次及び肉製品の種類に関する質問等があり、各講師がそれぞれの質問に答えていました。日頃

から留学生関連業務に従事している参加者にとっては大変有益な説明会となりました。

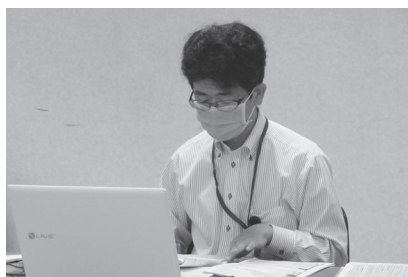
さらにこの出入国管理制度の講義は、「申請取次申出書」の添付書類となる経歴書に記入できる「出入国管理行政に関する研修会等」に該当するため、申請取次等資格者証の交付を希望する受講者には研修会受講証明書の提供をしております。

今回は100名を超える規模でのWeb会議システムを利用した説明会となり、遠隔地からも複数人の参加が可能となりました。参加者にとってもメリットがあるWeb開催を、今後さらに活用していきたいと思います。

（学務部学生支援課）



オンライン会議の様子



札幌出入国在留管理局
加瀬統括審査官による説明



北海道農政部生産振興局
本間主査及び農林水産省動物検疫所
浅倉防疫官による説明

おしよろ丸が教育関係共同利用拠点に再認定

7月21日（火）付けで、水産学部附属練習船おしよろ丸が、教育関係共同利用拠点として文部科学大臣から再認定されました。

教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ

質の高い教育を提供していくことを目的に、各大学が保有する施設の共同利用を推進するものであり、本学は全国最多となる以下の5拠点が認定されています。

これらの拠点の活動により、他大学

との連携を強化し、多様で高度な教育を展開していくことが期待されます。

（総務企画部企画課）

認定期間	施設名	拠点名
(今回再認定) 2021.4 ～ 2026.3	水産学部附属練習船おしよろ丸	亜寒帯海域における洋上教育のための共同利用拠点
2017.4 ～ 2022.3	北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション	フィールドを使った森林環境と生態系保全に関する実践的教育共同利用拠点
2017.4 ～ 2022.3	北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション (厚岸臨海実験所, 室蘭臨海実験所)	寒流域における海洋生物・生態系統合教育の国際的共同利用拠点
2020.4 ～ 2025.3	北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション (臼尻水産実験所, 七飯淡水実験所及び忍路臨海実験所)	食糧基地, 北海道の水圏環境を学ぶ体験型教育共同利用拠点－水圏環境・水圏生物・技術・人間活動から未来を考察できる人材育成－
2020.4 ～ 2025.3	高等教育推進機構 (高等教育研修センター)	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点－教育の内部質保証を担う大学教職員の能力向上プログラムの開発－



おしよろ丸での実習の様子



おしよろ丸前での出港式の様子



おしよろ丸が米国ダッチハーバーに入港する様子

■ 部局ニュース

水産科学研究院と北海道奥尻高等学校が高大連携協定を締結

水産科学研究院は、6月23日（火）に北海道奥尻高等学校と高大連携協定を締結しました。

これまで、両者は、北海道の水産課題に取り組む人材の育成を目指して、水産教育交流を進めてきました。例えば、2018～19年度、奥尻高校では地元の水産資源に関する学生有志の探究活動プログラムを実施し、本学からは修士課程学生を奥尻高校へ派遣し、奥尻高校生への水産科学実験の指導やプレゼンテーション指導という形で交流を

進めてきました。一方で、指導にあたった修士課程学生は奥尻高校での活動をまとめ、水産業における課題に取り組む人材育成をテーマに修士学位を取得するに至っており、この教育交流は双方にとって実りのある交流となっています。

本研究院で行われた調印式では、清水信彦北海道奥尻高等学校長、木村暢夫研究院長、都木靖彰教授が出席し、協定書への署名を行いました。

本協定により、双方の交流・連携を

通じて、北海道奥尻高等学校に所属する高校生の水産学への視野を広げ、学習意欲や進路に対する意識を高めるとともに、水産科学院・水産学部にも所属する学生の実践的教育を実現し、相互的な教育効果により高校教育・大学教育・大学院教育の活性化及び広く社会に貢献し得る人材を育成することが期待されます。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



協定書を持つ木村研究院長（左）と清水校長（右）

バランスドオーシャン事業による『LASBOS Moodle』の構築と学内公開

水産科学研究院と北方生物圏フィールド科学センターが進める「バランスドオーシャン」事業は、海洋分野のオンライン教育コンテンツを搭載したLASBOS Moodleの学内公開を7月27日（日）に開始しました。バランスドオーシャン事業は、「海のトップサイエンティストの早期発掘と育成」を目指した教育プログラム（機能強化促進事業2019-2023）です。従来の対面式の授業や実習に加え、それを強化するためのオンライン教材を提供し、早期に学生の研究志向性を高め、海のトップサイエンティストとなる人材を育成するものです。また、オンラインの利点を活かし大学の国際化にも貢献する

ことを目指しています。

大学の限られた資源のもとで持続的にプログラムを進めるためには、「研究の加速」と「教育の質向上」を両立（バランス）させなくてはなりません。まずは、海の分野からということで、Balance de Ocean（バランスドオーシャン）と名付けました。将来的には、海の分野に限らず、北大の各学問分野を“Ocean”に見立て、それぞれの海を自由に航行できる教育システムの構築を目指しています。

具体的には、教育システムプラットフォームとして普及している「Moodle」を用いて独自のオンライン教材を開発して全世界にインターネット公開し、

日本を含む世界中の人々が海への関心を持ち本学への進学を目指すきっかけを促すものです。優秀な学生の獲得とともに、社会教育への貢献も目的としています。

このMoodleのシステム名称として、「バランスドオーシャンを通じた教育研究」Learning And Study by Balance de Ocean System（LASBOS）を冠につけて、LASBOS Moodle (<https://repun-app.fish.hokudai.ac.jp/>)と呼ぶことにしました。10月1日（木）の一般公開に先駆けて、多言語化されたコース数300余からなるLASBOS Moodleの学内公開を開始しました。

また、LASBOS Moodleのほか、

LASBOS YouTubeチャンネル（“lasbos youtube hokudai”で検索）を合わせて開設し、動画教材を30本公開するとともに、そのうち23種をコレクションカード化したLASBOS cardを、本学総合博物館内の水産科学研究院展示スペース（札幌）や水産科学館（函館）にて配付し、広く情報発信を行っています。これらのオンライン教育コンテンツは今後も拡充する予定です。

LASBOS Moodleでは、本学の学生が分野や学年の枠を超えて海を学べる仕組みを作ります。ウェブの特長を生かして、あるテーマの教材から別の教材へリンクさせます。そして、リンクを辿って自由に学び、研究まで発展させることを目指しています。LASBOS Moodleのオンライン教材は、研究紹介や研究データを使った解析演習のコースから、それらを理解するのに必

要な学問基礎の内容までを含みます。さらに、従来の実験や実習の授業を強化するため、動画教材を多用したオンライン教材の開発も行っています。全学教育で学ぶ内容が、どのように専門教育につながり、どのような研究につながるのかを学生に提示することで、大学1年生のうちから研究を意識してもらい、研究志向性の早期発掘と育成を目指しています。

教材の多言語化も同時進行させて海外大学の学生にも利用してもらうことで、留学前指導を可能にし、優秀な留学生を戦略的に集めることにも活用します。

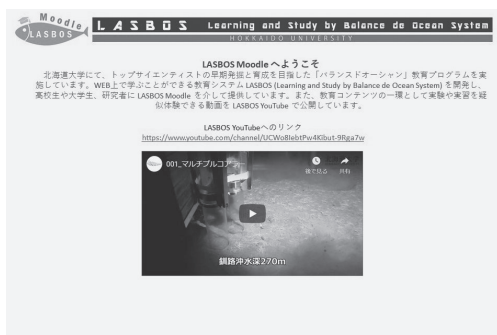
こうした教育プラットフォームの持続的発展には魅力的なコンテンツ（コース）が必要です。そのためバランスドオーシャンでは、教職員向けの講習会などを開催し、コンテンツの充

実に努めています。

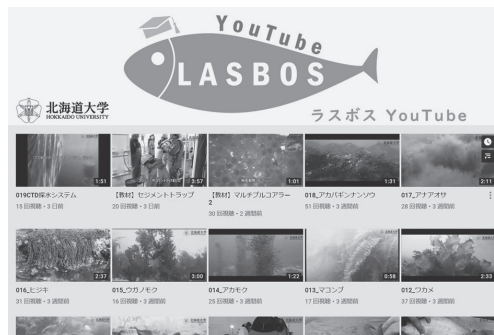
北大の教職員であれば、ログインIDを取得したのち、どなたでもLASBOS Moodleのコース作成ができます。LASBOS Moodleは、北大のELMSポータル（教育情報システム）で採用しているMoodleと同じプラットフォームです（LASBOSとELMSのMoodleはそれぞれ独立しています）。教員の皆様にも馴染みのあるMoodleなので、LASBOS Moodleも是非ご活用ください。LASBOS Moodleは、若干仕様を変えているので、バランスドオーシャン運用部でLASBOS Moodle操作マニュアルを作り、提供しています。

今後、他の部局にも順次説明を行っていく計画をしておりますので、是非、ご参加、ご協力をお願いします。

（水産科学研究院）



LASBOS Moodleサイトホーム



LASBOS YouTubeチャンネル



LASBOS Cardと水産科学館でのカード配布の様子



教員向け講習会の様子（実空間、Zoom、オンデマンドで実施）

2年次学部学科移行生のコミュニケーション環境整備 (オンライン交流・歓迎会)について

例年、対面授業における授業担当教員や学生同士のコミュニケーションにより解決できていたことが、オンライン授業のため、学生側の悩み等を把握することが難しくなっている側面もあります。

本年度4月に学部学科移行した2年次学部学科移行生においてもオンライン授業のため、クラスの学生同士の交流さえできず、教育環境の改善が必要となっていました。4学期制で専門科目を提供する理学部生物科学科（高分子機能学専修分野）では、春タームから夏タームに移行した直後の7月10日（金）に2年次学部学科移行生のための学科交流・歓迎会をオンラインツール（Web会議システムZoom）で開催

しました（2年・3年生（82名）及び学科担当教員（19名）合わせて計101名参加）。

学科から挨拶・趣旨説明と2年生の簡単な自己紹介後、Web会議システムのグループ機能を利用して、約6名ずつ計16の小グループに分かれ、より親密な交流セッションを設けました。オンラインでも対面と同じように自然とコミュニケーションが取れていました。小グループでは、教員と学生間の交流だけでなく、初対面となる2年生のクラスメート同士でも会話ができ、高分子機能学専修分野を希望した理由や将来就きたい仕事、またコロナ自粛中における家での生活の変化や楽しみ方など会話を弾ませました。小グ

ループを何回か入れ替え、約2時間の交流会を無事終えることができました。

オンラインの交流企画ではありましたが、学生－教員間、及び学生同士の双方向のコミュニケーション環境の整備に効果的であることがわかりました。高等教育推進機構から全学教育科目授業担当教員宛に「オンライン授業実施時における学生とのコミュニケーション環境の整備について（お願い）」（令和2年7月14日付）の通知が行われたこともあり、今後もこのような学生の教育環境整備のためオンラインツールの活用を進める予定です。

（理学部）



理学部2年次学部学科移行生のオンライン交流・歓迎会

附属図書館（本館・北図書館）における感染拡大防止への取り組み

附属図書館（本館・北図書館）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための北海道大学の行動指針（BCP）に沿って、4月18日（土）より臨時休館していましたが、行動指針（BCP）レベルが1に引き下げられたため、7月14日（火）から開館を再開しました。

再開後の図書館では、来館される学生・教職員の方が安心して利用できるよう、次のような取り組みをしています。

窓口カウンターには飛沫防止シートを設置、館内各所には手指用の消毒液を配置し、利用者対応を行う職員はマスクやフェイスシールドを着用しています。

館内は、利用者同士が十分な距離が取れるよう利用できる座席を限定し、

グループ学習等のエリアは全面利用禁止、また全館会話禁止としています。換気のために各所の窓を開け、よく利用されると思われる場所については、職員が毎日定期的に消毒をしています。

利用者の方にも、来館時のマスク着用、体調不良時の利用自粛や短時間利用などをお願いしています。

移動自粛等により来学が困難な学生へは、引き続き一定の条件下での郵送貸出や複写サービスを提供しています。

臨時休館中は利用に関する多数の要望があり、緊急対応として、授業準備や論文執筆に必要な場合に限定した事前申し込みによる出納（916冊*）、人数や利用時間を限定した臨時入館（のべ1833人*）、郵送貸出（79件*）等を実施しました。さらに非来館型サービ

スとして、オンライン資料の利用促進のための特設ページを設置し、インターネット環境があれば利用できる資料等の情報を積極的に発信しました。なお、現在もシラバス掲載図書などを中心に電子図書の増強を図っており、購入のリクエスト等も積極的に受け付けています。

今後は、来館して利用する紙の資料だけでなく、インターネット経由で使える電子資料も積極的に整備し、状況に応じて双方を活用してもらえようサービスを提供したいと考えています。

*サービス件数は6月末までの実績

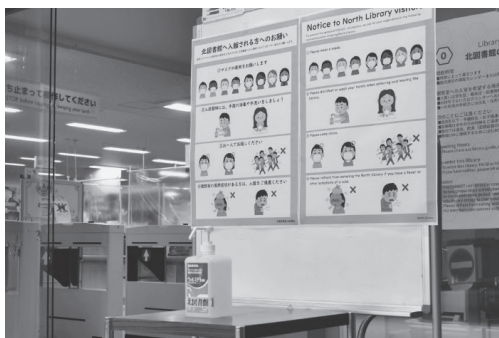
（附属図書館）



カウンターの飛沫防止シート（本館）



OPAC端末の消毒（本館）



手指消毒液とお願いポスター（北図書館）



十分な距離を取った座席（北図書館）

北方生物圏フィールド科学センター研究林産の木材を銘木市に出品

北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション天塩研究林、中川研究林、雨龍研究林では、本年春、実験の過程で伐採した木材を、旭川林産協同組合主催の銘木市に出品しました。本木材は、近年の気候変動により、日本でも毎年のように水害・土砂災害等が発生していることを背景に開始された、豪雨等で発生する山腹崩壊を人工的に再現し、その後の森林植生の積極的な回復等を研究するというプロジェクトのため、三研究林における実験フィールドを準備する過程で伐採したものの一部です。

本銘木市への出品は、平成30年度の2回に続いて3回目です。通常であれ

ば、道内をはじめ国内各地、さらには海外からも集められた銘木が所狭しと展示され、出品者やバイヤーのほか、市場の調査や丸太の見学に訪れた多くの官民の担当者が集う賑やかなイベントですが、本年4月以降は、新型コロナウイルスの影響を受け、入札箱に封書で投函するという方式がとられたため、閑散とした寂しい光景となりました。しかし、4月24日（金）に出品した天塩・中川研究林、そして6月26日（金）に出品した雨龍研究林とも期待にたがわぬ価格で落札され、良質木材に対する需要の高さがうかがえました。

今回の結果を受け、担当した教職員

一同、実験地に選ばれたのが「簡単には伐れない」「安易に伐ってはいけない」地形と土質の場所だからこそ、より自然度の高い豊かな森と、貴重な大樹が残されてきたという事実、「人間による利用・管理」と「自然を保全・保護する意義」のバランスの難しさにも思いを致しています。日々大切に守り育てている森林から伐り出された木々において、立派な丸太から端材に至るまで、より高い付加価値を追求することで持続的な森林管理が可能となり、地域、さらには林業界全体の活性化にもつながるものと考えています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



展示場の風景



中川林実験サイト 傾斜は実に30°！



雨龍林にて ミズナラ伐倒



中川林にて 規定の寸法に切り分けます



中川林にて 出品を待つミズナラ材



この春は静かな入札会場

スラブ・ユーラシア研究センター国際シンポジウム 「北東アジア～歴史と未来, 発展と摩擦」を開催

スラブ・ユーラシア研究センターは、7月2日（木）・3日（金）に、夏期国際シンポジウム“Northeast Asia: Pitfalls and Prospects, Past and Present”を開催しました。新型コロナウイルス感染症対策のため、全編オンライン会議（ZOOM）で実施するという初の試みでした。本シンポジウムの前半（第1、第2セッション）は、2016年度に開始した人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「北東アジア地域研究推進事業」の北大拠点メンバーによる成果を海外の研究者と議論する機会であり、後半（第3および第4セッション）は科研費基盤研究（A）「戦後北東アジアにおける歴史的分岐点のマルチアーカイブ分析」（代表：ディビッド・ウルフ）のメンバーによる議論と聴講者との意見交換の場でありました。

米国や中国の戦略的関心がアジアの南方、インド・太平洋地域に移りつつある状況のなかで、冷戦終結後も地域制度が育たなかった「北東アジア」という地域概念に、新たな角度から光を当てるのが第1、第2セッションの共通の課題でした。第1セッション「地域協力のボトルネック」は2つのパートに分かれ、パート1では地域特有の主権問題というハードなボトルネックと、日韓の「不信の政治」の問題が外交関係だけでなく雇用不安や貧困という社会内部の問題に根差しているという「ソフトなボトルネック」の

問題を議論しました。パート2では、北東アジアという地域概念について、国家間の境界地域やボーダーの観点から再検討し、競合する外部アクター（米、ロ）の存在によってこの地域はヨーロッパ、中央アジア、東南アジアとのリンクが強い「開かれたエリア」であり、海域での主権争いの先鋭化によって「島」の意義が再確認されつつあること、そして境界地域は国家間対立と協調の振り子の間で、「壁」にも「ゲートウェイ」にもなるリトマス試験紙であることなどが指摘されました。第2セッション「地域の困難を再考する」では、日韓の漁場紛争の実態、トランプ政権下の北朝鮮政策における新旧の危機、中ロ接近の試験場であるロシア極東（アムール州、ユダヤ自治州）での中国の土地取引問題から、国家間関係の実態に迫りました。シンポジウム初日の最後に、ポーランドの研究者がCOVID-19によって生じたEUの分断について特別講演を行い、北東アジアの状況と比較する議論が交わされました。

セッション3・4は冷戦期の日本について世界の先端を行く研究の成果を議論する場となりました。1999年に情報公開法が公布され、2001年に施行されて以降、多くの関連文書が連綿と機密指定を解かれてきました。情報公開は、この2セッションの報告者たちを含む研究者たちによる機密指定解除請求によってさらに推進されています。

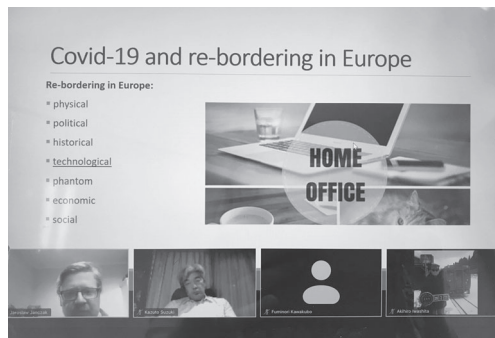
こうした努力が冷戦期の、特に北東アジア及び太平洋地域における日本の役割をアーカイブ資料に基づいて再考する試みを可能にしたのです。セッション3・4のペーパーはいずれも日本のアーカイブ資料を利用し、アメリカ・中国・韓国・ロシアの資料も同時に用いるものでした。日本の文書に色濃く反映している「日本からの視点」のいくつかは、現在の冷戦史叙述を変え得るほどのインパクトを有しています。組上に載ったトピックの例としては、日本の自主外交に対する意識の高まりと実践、日本の——これまで考えられてきた以上に積極的な——イニシアティブ、政治家の「達成」の裏にあった政府官僚の主導的役割、第二次世界大戦後のアメリカ・中国・ロシア・韓国との国交回復などが挙げられます。この種の主要な問題系はいずれも地域に根差したものであり、和田春樹（東京大学名誉教授）の提唱した「東北アジア共同の家」にも通じるものがあります。

参加者は2日間で述べ160人にのぼり、ZOOM会議の利点として、国内外の様々な地域から御参加をいただくことができました。北東アジアのかたちと大きさ、過去と未来をよりうまく描こうとする我々の試みを可能にくださった御協力者の皆様に、この場を借りて今一度深く御礼申し上げます。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



ZOOMシンポジウムの様子



ポーランドからのCovid-19に関する特別講義

■お知らせ

「北海道大学の役職員の給与等の水準（令和元年度）」の概要について

独立行政法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表に関する政府決定等及び国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）に基づき、本学の役員の報酬等、職員の給与水準及び総人件費について、令和元年度分の概要をお知らせします。

令和元年度における役員の報酬等の支給状況

	役員 8 人（法人の長、理事（5 人）、監事（2 人））
年間報酬等の総額	119,205 千円

令和元年度における職員の給与水準

	比較対象人員数（注 1）	平均年齢	令和元年度 年間給与額（平均）
事務・技術職員	958 人	41.5 歳	5,655 千円
教育職員（大学教員）（注 2）	1,100 人	49.8 歳	8,827 千円
医療職員（病院看護師）	388 人	40.7 歳	5,582 千円

注 1）「比較対象人員数」は、令和 2 年 4 月 1 日現在、在職している常勤職員（令和元年度途中の採用者及び異動者等を除く。）である。

注 2）「教育職員（大学教員）」は、年俸制教員を除く。

総人件費

区 分	令和元年度	平成30年度	比較増△減	
給与、報酬等支給総額（A）（注 1）	千円 29,909,505	千円 30,105,805	千円 △196,300	% △0.7
退職手当支給額（B）（注 1）	千円 2,228,101	千円 1,789,841	千円 438,260	% 24.5
非常勤役職員等給与（C）（注 2）	千円 13,191,664	千円 12,676,209	千円 515,45	% 4.1
福利厚生費（D）（注 3）	千円 6,269,740	千円 6,176,872	千円 92,868	% 1.5
最広義人件費（A + B + C + D）	千円 51,599,012	千円 50,748,728	千円 850,284	% 1.7

注 1）「給与、報酬等支給総額」及び「退職手当支給額」は、常勤役員及び常勤職員に支払われた報酬（給与）、賞与、その他の手当の総額並びに退職手当の総額である。

注 2）「非常勤役職員等給与」は、非常勤役員及び非常勤職員等に支払われた給与及び退職手当の総額である。

注 3）「福利厚生費」は、全ての役員及び職員（非常勤職員等を含む。）に係る法定福利費と法定外福利費の総額である。

※本概要の詳細については、本学ホームページ（広報・公開、情報公開、法令等に基づく公表事項、その他公表事項）に掲載しています。（<https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/other/>）

（総務企画部人事課）

被扶養者の要件の確認

「被扶養者の要件の確認」を本年9月中に行います。

ついては、認定されている被扶養者の認定条件に必要な添付書類を9月上旬に確認が完了するよう早期に手配し、被扶養者申告書とともに所属している部局等の共済事務担当係へ提出願います。

なお、被扶養者申告書に現在使用中の組合員証等の添付は不要です。

また、国家公務員共済組合連合会より送付される「ねんきん定期便」が届くよう、被扶養者申告書の住所を確認し、変更がある場合は、速やかに届出ください。

おって、「被扶養者の要件の確認」の詳細は各学部等の共済事務担当係にお問い合わせください。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

■ 監事退任にあたって

本年8月31日限りで監事を退任される方々のお言葉と略歴を紹介します。

監事

たけや ちさと
竹谷 千里 氏



平成28年4月からの4年5ヶ月の任期は、なんとまあ、初めてのことだらけの慌ただしい期間でした。

大学総長の権限が強化されたことに伴い、平成27年4月から監事の責任と権限が強化され、初めて就任する監事となりました。

就任1年で総長以下役員が全員交代し、その1年9ヶ月後に総長が休職。その後、総長選考会議が総長解任の申し出を行い、本年6月30日付けで文部科学大臣が総長を解任。国立大学法人としては初めての事です。

その間、平成30年9月には北海道全域が日本で初めてのブラックアウトを経験し、今年は、いまだに新型コロナウイルス感染症への対応に追われています。このような世界的な感染症対策は、今生きているほとんどの人は初めて経験するものではないでしょうか。

本学執行部がそれぞれへの対応に追われる中、監事としてはどのようにあるべきなのか悩み続けた期間でしたが、様々な会議や意見書等においては、危機管理、リスクマネジメントといった視点からの意見に心がけ、また、平成29～30年度に実施した全教職員を対象としたアンケートは、教職員の皆さんの生の声を聞くことができ、今後においても大変貴重な資料となるものと考えています。

今後、新たな制度のもとで総長候補者が選考されることとなりますが、新執行部におかれては、総長不在期間の遅れを取り戻すべく、全力で取り組んでいただくことを期待するとともに、文部科学省が求める大学像を追いかけ続け疲弊することがないように、前進するスピードが緩むことがあったとしても、もう一度、「北大らしさ」「北大ブランド」を生かした大学づくりについて検討されても良いのではないかと考える次第です。

それにしても、次期総長候補の選任を監事として見届けられないのが、なんとも残念です。

略 歴

昭和53年3月 北海道大学法学部卒業
平成25年4月 北海道環境生活部長
平成26年4月 北海道監査委員
平成28年4月 } 国立大学法人北海道大学監事
令和2年8月 }
平成30年9月 } 国立大学法人等監事協議会会計監事
令和2年8月 }

監事

ほり しゅんすけ
堀 俊介 氏



平成28年4月に非常勤監事に就任し、令和2年8月をもって退任いたします。学生時代あまり真面目に勉学に励んだ記憶もなく、また、平成6年に卒業して以降、本学にあまり深く関わって来なかった私が、20数年後に非常勤とはいえ監事という立場で関わらせて頂いたことは、退任を前にしてもなお少し面映ゆい気持ちが拭えません。

今、世界はコロナ禍という脅威にさらされております。これまでも大学を取り巻く環境変化は激しく、改革が急務とされておりました。そこに起きたこの未曾有のパンデミックはパラダイムシフトを否応なしに我々に突きつけており、大学が目指していく方向性にも大きく影響を与えることと思います。ただ、こういう時だからこそ、「北大近未来戦略150」に掲げる、「世界トップレベルの研究」と「グローバルな人材育成」がこの難局を乗り越える力になるはずです。皆様方の知恵と実行力を結集して、この北大が世界の持続的発展に貢献する存在となることを願ってやみません。

非常勤として限定的な会議への参加だけでは本学についての真の理解、そして有効な提案などではできるはずもなく、ただ傍観者であった感は否めません。それでも、本業である企業における会計監査人とは少し違った立場で変革期にある大学運営を垣間見ることができたことは、私の会計士人生に大きなプラスとなりました。いつか、どこかで、何らかの形で恩返しできればと思っております。

在任中にサポートして頂いた監査室の皆様方、また理事を始めとして教職員の皆様方には大変お世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

略 歴

平成6年3月 北海道大学経済学部卒業
平成7年8月 公認会計士2次試験合格
平成7年8月 朝日監査法人（現有限責任あずさ監査法人）入所
平成15年6月 有限責任あずさ監査法人退所
平成17年12月 監査法人ハイビスカス設立
平成28年4月 } 国立大学法人北海道大学監事
令和2年8月 }

■ 学内規程

北海道大学情報基盤センター規程の一部を改正する規程

(令和2年8月1日海大達第125号)

北海道大学情報基盤センターに、情報基盤に関する先端的な研究成果及び知見を活用し、本学における情報環境の整備の推進に資するため、情報環境推進連携部を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

■ 諸会議の開催状況

教育研究評議会（令和2年7月1日）

報告事項・名和豊春総長の解任の報告及び総長代行について

役員会（令和2年7月6日）

- 議案・第4期中期目標・中期計画策定方針等について
- ・大学機関別認証評価の受審機関について
 - ・大学機関別認証評価における自己評価書作成方針等（実施体制）について
 - ・令和3年度概算要求施設整備事業について
 - ・勤務時間中の団体交渉に参加した組合員の職務専念義務免除について
- 協議事項・第3期中期目標期間4年目終了時評価について
- ・「国立大学法人北海道大学における評価に関する基本的な考え方」の改訂について
 - ・令和3年度概算要求事項について
 - ・令和元年度決算について
- 報告事項・役員の退職手当の支給について
- ・全学運用教員の実施状況報告について
 - ・令和元年度内部監査報告について
-

経営協議会（令和2年7月13日）

- 議題・第3期中期目標期間4年目終了時評価について
- ・令和元年度決算について
 - ・令和3年度概算要求事項について
 - ・役員の退職手当の支給について
- 報告事項・総長の解任等について
- ・令和元年度における本学の増収・経費削減に向けた取り組みについて
 - ・令和元年度 資金の運用状況について
 - ・函館地区キャンパスマスタープランの策定について
- その他・「令和元年度北海道大学ファクトブック」について
-

教育研究評議会（令和2年7月15日）

- 議題・第3期中期目標期間4年目終了時評価について
- ・「国立大学法人北海道大学における評価に関する基本的な考え方」の改訂について
 - ・令和3年度概算要求事項について
- 報告事項・全学運用教員の措置について
- ・全学運用教員の実施状況報告について
 - ・大学機関別認証評価における自己評価書作成方針等（実施体制）について
 - ・第4期中期目標・中期計画策定方針等について
 - ・次期総長の選考日程等について
-

役員会（令和2年7月27日）

- 議案・第3期中期目標期間4年目終了時評価について
- ・「国立大学法人北海道大学における評価に関する基本的な考え方」の改訂について
 - ・令和元年度決算について
 - ・令和3年度概算要求の提出について
 - ・クロスアポイントメントの適用について
- 報告事項・理事の交代及び職務分担について
- ・創成研究機構による構成組織の研究活動等の進捗状況の確認結果について
 - ・役職員の報酬・給与等の水準の公表について
 - ・超過勤務実績について
-

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■人事

令和2年7月27日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【役員】 （転出） 文部科学省大臣官房付	関 靖 直	理事（事務局長）

令和2年7月28日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【役員】 理事 理事（事務局長）	梅 原 俊 志 菅 原 修 孝	日東電工株式会社代表取締役 専務執行役員CTO 全社技術部門長 理事

令和2年7月29日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【役員】 理事	村 田 善 則	文部科学省研究振興局長
【部局長・施設長等】 （免・サステイナブルキャンパスマネジメント本部長） （免・安全衛生本部長） サステイナブルキャンパスマネジメント本部長 安全衛生本部長	菅 原 修 孝 菅 原 修 孝 村 田 善 則 村 田 善 則	理事 理事 理事 理事

令和2年7月31日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【教授】 （転出） 京都大学教授	西 浦 博	大学院医学研究院教授

令和2年8月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【教授】 大学院理学研究院教授	北 孝 文	大学院理学研究院准教授

新任役員紹介

令和2年7月28日付



理事（非常勤）に

うめはら としゆき
梅原 俊志 氏

令和2年7月28日付けで新たに梅原俊志氏が就任されました。

任期は、後任の総長が任命される日の前日までです。

担 当

経営改革

略 歴

生 年 月 日 昭和32年9月3日
昭和59年3月 慶應義塾大学大学院工学研究科機械工学専攻修士課程修了
昭和59年4月 日東電工株式会社
平成11年4月 日東電工株式会社 主任研究員
平成17年7月 日東電工株式会社 事業部本部長
平成21年7月 日東電工株式会社 事業部長
平成22年6月 日東電工株式会社 執行役員，事業部門長
平成25年6月 日東電工株式会社 上席執行役員，事業部門長
平成27年6月 日東電工株式会社 取締役，事業部門長
平成29年4月 日東電工株式会社 取締役，CTO，全社技術部門長
平成30年4月 日東電工株式会社 取締役，CTO，CIO，全社技術部門長
令和元年6月 日東電工株式会社 代表取締役，CTO，全社技術部門長

令和2年7月29日付



理事に

むらた よしのり
村田 善則 氏

令和2年7月29日付けで村田善則氏が就任されました。
任期は、後任の総長が任命される日の前日までです。

担 当

労務管理，安全・防災，施設・環境，情報（推進・セキュリティ・個人情報），ハラスメント，障害者差別解消

兼務する職

施設・環境計画室長，サステイナブルキャンパスマネジメント本部長，安全衛生本部長

略 歴

生 年 月 日 昭和36年10月23日
昭和60年3月 早稲田大学法学部卒業
昭和60年4月 文化庁文化財保護部伝統文化課
昭和61年4月 参議院法制局参事
昭和63年7月 文部省高等教育局医学教育課
昭和63年10月 文部省高等教育局医学教育課企画係長
平成2年7月 文部省体育局体育課企画係長
平成4年4月 長崎県教育庁文化課長
平成6年10月 総務庁人事局参事官補佐
平成9年1月 文部省高等教育局企画課課長補佐
平成10年4月 金沢市教育委員会教育次長
平成12年7月 文部省高等教育局大学課大学院振興企画官
平成13年7月 （命）文部科学省高等教育局大学改革官
平成14年10月 文部科学省高等教育局大学課大学企画調整室長
平成15年4月 文部科学省初等中等教育局企画官
平成16年7月 文化庁文化財部記念物課長
平成18年1月 文部科学省高等教育局学生支援課長
平成20年7月 文部科学省高等教育局私学部私学行政課長
平成22年7月 厚生労働省医政局医事課長
平成23年7月 文部科学省高等教育局医学教育課長
平成25年10月 文部科学省科学技術・学術政策局政策課長
平成25年10月 （命）文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術総括官
平成27年8月 文化庁文化財部長
平成28年6月 文部科学省高等教育局私学部長
平成30年10月 文化庁次長
令和元年7月 文部科学省研究振興局長
令和2年7月 同上退職（役員出向）

新任教授紹介

令和2年8月1日付



理学研究院教授に

きた たか ふみ
北 孝文 氏

物理学部門電子物性物理学分野

生年月日

昭和34年4月2日

最終学歴

東京大学大学院工学系研究科修士課程修了（昭和59年3月）
工学博士（東京大学）

専門分野

物性理論・統計力学・場の量子論

訃報

名誉教授 黒澤 悦郎 氏
(享年93)



名誉教授黒澤悦郎氏は、令和元年12月24日に逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は大正15年2月8日札幌市に生まれ、昭和25年3月に本学理学部化学科を卒業後、同年5月理学部文部教官助手に任ぜられました。昭和33年7月同講師、37年5月同助教授、49年4月

には同教授に昇任され、一般教育課程化学を担当されました。昭和36年6月には「アセチルベンゾキノン誘導体」の研究により理学博士の学位を授与されました。

昭和37年7月から2年間、ウィスコンシン大学において博士研究員、帰国後は「海藻成分の有機化学的研究」に従事し業績を挙げられました。その後、40年間に亘り理学部・理学研究科で研究・教育に従事され、平成元年3月停年退職、4月に名誉教授の称号を授与されました。

研究面では紅藻フジマツモ科ソゾ属から特異な含ハロゲンテルペノイド類及びアセトゲニン類を数多く単離して海洋天然物化学の研究に貢献されました。ミツデソゾ、アカソゾ、ヒメソゾなど形態による分類が困難なソゾ属の分類に関して成分分類学の有効性を実

証。ウラソゾの採集場所による成分差がケミカルレースによることを見出し、系統分類学及び酵素的有機化学への発展に大きく貢献。天売島で採集したマギレソゾから強い抗腫瘍活性を示す含臭素トリテルペノイド環状ポリエーテル類を発見、等々。

研究の他には主要な委員会の委員や委員長を歴任するとともに、昭和44年4月からは学生運動激動期の学生問題の打開に尽力。また、昭和59年4月から61年12月まで評議員として、昭和60年1月から61年12月までは教養部長として管理運営に貢献され、平成18年には瑞宝中綬章を受章されました。

長年に亘るご功績に敬意を表し、多大な貢献に感謝申し上げます、謹んでご冥福をお祈りいたします。

(理学研究院・理学部)

名誉教授 田川 遼三郎 氏
(享年92)



名誉教授 田川遼三郎先生が令和2年6月25日に逝去されました。

先生は、昭和28年3月に北海道大学工学部電気工学科を卒業され、同33年3月に同大学院電気工学科博士後期課程を修了、4月に同大学工学部電気工学科講師に就任されました。同35年1月に同学部精密工学科の助教授に昇任、同37年2月に工学博士を取得、同42年4月には同学部電気工学科電気機械学第二講座の教授に昇任されました。同43年9月からは1年間、米国スタンフォード大学で在外研究に従事さ

れました。その後、同61年4月から平成2年3月まで、北海道大学大型計算機センター長を務められ、同3年3月に北海道大学を退官されました。退官後は、同年4月より9年3月まで旭川工業高等専門学校校長を務められました。同2年7月に計測自動制御学会フェロー、同15年5月には勲三等旭日中綬章を受章されています。

教育面では、制御工学に関する科目を担当され、多くの博士・修士・卒業論文を指導され、優秀な人材を大学や産業界に数多く輩出されました。

研究面では、補償限界型制御器という独自の制御理論を構築され、これに基づき、ロバスト・モデル・マッチング、デュアル・モデル・マッチングと呼ばれる設計法を確立されました。補償限界型制御器は、対象システムが与えられたとき、達成可能な限界特性を達成する制御器のことで、達成可能な特性範囲が理論的に明確になり、制御では達成できない特性要求に対しては、対象システムの再設計の必要性を

主張可能になりました。これら設計法は産業界において、大型計算機用磁気テープの張力及び速度の自動制御系、航空機の操縦系統及び自動着陸のための自動制御系、電波望遠鏡を搭載した人工衛星の姿勢自動制御系等、先端システムの制御設計に用いられ大成功を収めました。

北海道大学大型計算機センター長としては、キャンパス・ネットワーク構築に計画段階から指導力を発揮され、他大学にも影響を与えたHINESネットワークを構築されました。

ご自身がノブレス・オブリージを実践されることにより、本学の伝統である全人教育にも注力され、専門分野を超えて人材育成にも大きな貢献をされました。

先生の長年に渡る多大なご貢献とご尽力に改めて深く感謝し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

編集メモ

withマスクの今年の夏は気温以上に暑いと感じる日々が続いております。9月26日（土）に開催を予定しておりました「ホームカミングデー2020」につきましては、新型コロナウイルスの感染が全国的に拡大している状況を鑑み、今年度の開催は中止となりました。

裏表紙メモ

北海道大学のキャンパスの風景を様々な角度からご紹介する「キャンパス風景」。
今月は平成ポプラ並木。本学の創基125周年記念事業の1つとして、2000年10月に植樹をした全長約300mの並木道です。
緑が生き茂るこの季節はとても見頃です。

キャンパス風景 5 平成ポプラ並木（北16条西13丁目付近）



北大時報 ⑧ No.797 令和2年8月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2162 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimu.hokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>